

第3学年 体育科学習指導案

は組 男子 20名 女子 20名 計 40名

指 導 者 當 房 省 吾

1 単 元 ルールを工夫したキックベースボール

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、「ルールを工夫したシュートゲーム」などの学習を通して、みんなが楽しめるルールやコート工夫しながら、ねらったところにボールを投げる・捕る・蹴る・当てることやボールが動いてくる方向に動いて守るなどして、攻守交代でのゲームを楽しんできている。そして、「もっとたくさん得点してゲームに勝ちたい。」という願いをもっている。

ここでは、クラス全員の子どもたちがゲームを楽しむために、ねらってボールを蹴る・投げる、ボールを正面で捕る技能や得点の仕方を理解し、出塁する技能を高める。また、全員が楽しめるルールやコートを工夫し協力してゲームをすることで、出塁して得点したり捕球して得点を阻止したりするベースボール型ゲームのおもしろさをより味わわせようとするものである。

この学習で身に付けた軸足を踏み込み、膝を曲げて蹴ることや動いてボールを正面で捕球し片足を前に出して投げることは、第3学年「ルールを工夫したセストボール」の投捕でパスをつなぎ、膝を曲げてシュートする動きや第5学年「ルールを工夫したティーボール」のバットを使って、打ちたい方向に体を向けて、片足で踏み込み膝を曲げながらボールを打つ動きへと発展する。

(2) 指導の基本的な立場

キックベースボールのおもしろさは、止まっているボールを蹴ることでボール操作が易しく、どの子も思い切りボールを蹴り当てる爽快感を感じ、より多く出塁する楽しさを味わうことができるところにある。また、人のいないところをねらって蹴って得点を入れたり、蹴られたボールを捕球して出塁を阻止したりして攻守を交代しながら勝敗を競うところにある。

第3学年の「ルールを工夫したキックベースボール」は、初めて出合うベースボール型のルールやゲームの行い方を理解しながら、ゲームを進めるために必要な軸足を踏み込んでボールを蹴る技能やボールを正面で捕球し、足を一步踏み出して投げる技能を高める。そして、よい動きを見合い、動き方のコツを見つけたり、全員が楽しめるルールやコートを工夫したりしながら得点を競い合う学習である。このように、コツの発見やルール・コートの工夫やゲームの進め方の理解、基本的な技能の向上などを通して、ベースボール型ゲームを楽しむことができるようになる。

このキックベースボールのおもしろさを味わわせるために、試しのゲームで身に付けたい動きを体験させ、自分の実態を把握させる。そして、「もっとたくさん得点を取りたい。」という願いをもたせ、そのために自分の動きを振り返り、自分の課題をつかませることが大切である。さらに、**蹴・投・捕に必要な体の動きを体験させ動きの感覚をつかませたり、技能を高めるドリルゲームや塁の取り方、ゲームでの動き方を理解させるタスクゲームなどを位置付けたりする。**

そこで、学習の展開としては、初めのルールでゲームの行い方を理解させる試しのゲームを行う。その際、蹴・投・捕の動きがどれぐらいできるかという観点を基に自分の実態を把握させる。また身に付けさせたい動きに必要な瞬発力や敏捷性を測定することで、自分の課題をつかませる。

単元の前半では、**感覚づくりの運動やドリルゲームにじっくりと取り組ませ、ゲームの進め方やゲームを行うために必要な動きを身に付けさせる。**そして、みんなが楽しめるルールの工夫をさせる。単元の後半では、攻撃の仕方など全員が楽しめる作戦について話し合う。最後にキックベースボール大会を行い、自分の高まりを感じさせ、これまでのがんばりを価値付ける。

この学習を通して、身に付けたい動きの感覚をつかむことやルールの工夫、友達と教え合う大切さを味わうことで、動くおもしろさやできる喜びを感じ、ボールゲームやその他の運動とのかかわりを深め運動に挑戦し続けることができるようにする。

(3) 学級の実態(調査人数は40名, 調査結果は主な項のみ表掲)

①キックベースボールに対する興味・関心

好き	40名	○蹴る・投げる・捕ることが好き ○楽しい(21名) ○ボールゲームが好き(11名) ○上手にできると楽しい(3名) ○蹴・投・捕の力がつく(1名) ○将来のスポーツにつながる(1名) ○勝つとうれしい(1名) ○得意(1名)
----	-----	--

②学習のめあてについて

○たくさん点数を取りたい(15名)	○うまく投げる投げ方を知りたい(7名)
○うまく蹴る蹴り方を知りたい(7名)	○うまく捕る捕り方を知りたい(2名)
○上手になりたい(7名)	○コツを見つけたい(4名) ○投げる力をつけたい(1名)

③動きのコツについて

【投げる】	○片手で思い切り投げる(7名) ○一方の足を前に出す(4名) ○腕を引く(1名) ○体重をのせる(2名) ○分からない(26名)
【蹴る】	○土踏まずで蹴る(9名) ○つま先で蹴る(2名)・力をためる(5名) ○後ろに足を引く(2名) ○ボールをよく見る(2名) ○的をよく見る(1名) ○分からない(19名)
【捕る】	○ボールをよく見る(16名) ○両手でしっかりとつかむ(8名) ○胸の前で捕る(1名) ○姿勢に気を付ける(2名) ○ボールの方へ素早く動く(1名) ○分からない(12名)

④ルール工夫について

・ケンカをしない, 約束を守るなどの学習への態度に関するルール(16)	・ベースを大きくする, 1塁で1点にするなどの得点の仕方に関するルール(8)
・試合のないチームは審判をするなどのゲームの運営に関するルール(5)	・無回答(11)

⑤技能について

	ねらって蹴る	ねらって投げる(片手)	捕る
できる	10名	4名	11名
なんとかできる	18名	10名	18名
あまりできない	12名	26名	11名

本学級の子どもたちは, ①からキックベースボールに対して高い関心をもっていることが分かる。そこで, さらに関心を高めるために, 自分の課題を基に練習させるようにする。

②の学習のめあてについて, 「たくさん点数を取りたい。」「うまくできる蹴り方や投げ方, 捕り方を知りたい。」など多くの子どもが一つ一つの動きをできるようになりたいと願っている。一方で, ③動きのコツについては, 蹴・投・捕どの動きについても「分からない」という子どもが多い。その反面, 投げる際に「一方の足を前に出す」「腕を引く」など動きの細部に注目しコツに気付いている子どももいる。そこで, よい動きをしている友達の体の部位に着目して見合う活動を取り入れ, 動きのコツに気付かせるようにする。また, 気付いた動きのコツを基に動きを身に付けることができるように, 見つけたコツを絵図などに書き込み, 掲示資料として活用しながら類似運動に取り組みさせていく。④のルール工夫に関しては, 「ケンカをしない」「約束を守る」などの学習の態度に関するルールが多いが, 中には「ベースを大きくする」「1塁で1点にする」などより多く得点できるようなルールを考えている子どももいる。そこで, 全員が楽しむことができるようにアウトゾーンの狭いコートや1塁1得点制, 全員攻撃してから攻守を交代するなどのルールを工夫し, 全員が楽しくゲームできるルールづくりを話し合わせていく。

⑤の技能に関しては, 蹴・投・捕どの技能においてもうまくできない子どもが多い。そこで, 「スリッパとばし」「紙鉄砲遊び」「リバウンドボールキャッチ」など体の部位ごとの動きを体験させ, **動く感覚をつかませる運動遊びや「線またぎ的当て」「リバウンドキャッチ」「キックゲーム」などのドリルゲームを取り入れていく。**また, ベースボール型ゲームに初めて取り組む子どもたちはゲームの行い方が分からない子どもが多い。そこで, ゲームの行い方を理解するためのタスクゲームを位置付け, ゲームの仕組みを理解させる。そうすることによって, 出塁の意味が分かり, 塁に進むことによって得点を競い合うベースボール型ゲームのおもしろさを感じさせるようにする。

(4) 指導上の留意点

- ア 試しのゲームで全員が楽しくゲームできたか、蹴・投・捕の動きがどれくらいできたかという観点を基に振り返り、「目指す動きを身に付け、全員が楽しむことができるゲームをしよう」という共通課題を設定する。その際、「遠くに蹴れるようになりたい」など個人の課題も連続・発展させていくようにする。
- イ 目指す動きの感覚づくりのために、単元の前半には、「紙鉄砲遊び」や「スリッパとばし」、「リバウンドボールキャッチ」などの運動遊びにじっくり取り組ませる。また、準備運動で「線またぎ的当て」や「キックゲーム」などのドリルゲームを位置付け、繰り返し取り組ませる。さらに、単元の後半で、ゲームの仕組みを理解させるために「出塁ゲーム」などのタスクゲームを位置付ける。
- ウ 動きのコツをつかませるために、体の部位に着目し、友達のよい動きを見合う活動や動きを比較しながら友達同士教え合う活動を位置付ける。
- エ 動きがうまくできない子どもには、見つけたコツを書き込んだ絵図資料を用いて動き方を確かめながら運動に取り組ませたり、助言・称賛・激励などの言葉かけをしたりする。
- オ 男女混合6～7名の異質グループを編成し、一人一人がより多く得点する機会を得ることやお互いの動き方を見合うことができるようにする。
- カ 蹴って出塁する機会が多くなるように、ボールを蹴りやすいゴム製のサッカーボール(4号球)を使用する。
- キ 「楽しくゲームをできたか」「目指す動きができるようになったか」などの問いかけを基に学習を振り返らせ、学習カードに自己評価をさせ、意欲を持続させるようにする。

3 目 標

- (1) 「思い切りボールを蹴りたい。」「もっとたくさん得点を取りたい。」などの願いをもち、ルールを守り、友達と協力して楽しく運動することができる。
- (2) 友達の体の部位に着目して、動き方を比較してコツを発見したり、。また、全員が打つことができるようなルールやコート工夫することができる。
- (3) 軸足をしっかり踏み込んで蹴る・片足を前に出して腕を振り上げて投げる・動くボールの正面に入って捕ることができる。また、ゲームの仕組みが分かり、真っ直ぐ走って出塁することができる。

4 指導計画(全9時間)

時間	1・2	3	4・5(本時)	6・7	8・9	
道筋	つかむ・見通す	つかむ・見通す	工夫する・挑戦する	生かす	まとめる・生かす	
課題の追究過程	<p>チャレンジタイムをして、自分の力を知り、学習のめあてを立てよう。</p> <p>試しのゲーム【初めのルール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サークル内で捕球→ストップ ・ホームベースで1点 <p>必要な動きへの挑戦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敏捷性、瞬発力など <p>動きの把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蹴・投・捕 <p>共通課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが楽しめるサッカーボールにしたい。 <p>課題の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素早く横に動く力が必要だ ・足や手の筋力をつけたいな 	<p>みんなが楽しめるキックベースボールのゲームをしよう。</p> <p>【感覚づくり】紙鉄砲、スリッパとばし、リバウンドボールキャッチなど</p> <p>《ドリルゲーム》線またぎ的当て キックゲーム《タスクゲーム》出塁ゲーム</p> <p>蹴る・投げる・とるうごきのかんかくをつかもう。</p> <p>《感覚づくりの運動遊び》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙鉄砲遊び ・スリッパとばし ・リバウンドボールキャッチ ・的当てキックゲーム ・パウンド競争 ・リバウンドネット遊び 	<p>みんなが楽しめるルールをくふうしよう。</p> <p>【ルール・コートの工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員攻撃したら交代 ・1塁1点制 ・ホームラン3点 ・ストップゾーンを小さくする 	<p>みんなが楽しめるさくせんをくふうしよう。</p> <p>【作戦の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人のいない場所へ蹴る ・バントをする 	<p>キックベースボール大会をしよう</p> <p>【トーナメント戦】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールやコートの確認 ・勝敗表の準備 ・チームによる作戦の設定 <p>サッカーボールのおもしろさを味わい、動くおもしろさやできるよくなる喜びを味わい、運動へ挑戦しつづける姿</p>	
楽しさの深まり	楽しさ	試しのゲームの結果から学習のめあてをもてる楽しさ	蹴る・投げる・捕る動きに必要な体の動きを体験し、動かし方の感じをつかむ楽しさ	友達の良い動きからボールの蹴り方や投げ方、捕り方が分かる楽しさ	蹴る・投げる・捕る動きができたこと、みんなが楽しめるルールや作戦の工夫、練習の成果が出て得点できる楽しさ、作戦がうまくいく楽しさ	蹴る・投げる・捕る動きができたこと、みんなが楽しめるルールや作戦の工夫、練習の成果が出て得点できる楽しさ、作戦がうまくいく楽しさ

5 本 時 (5 / 9)

(1) 目 標

- ア 「ルールを工夫してみんなが蹴ることができるようにしたい」「もっと遠くにボールを蹴りたい」という願いをもち、進んで運動に取り組むことができる。
- イ 全員が塁に出たり得点したりできるようなルールを工夫することができる。また、体の部位に着目して友達のよい動きを見合う活動から、よい動き方に気付くことができる。
- ウ 軸足を踏み込んで蹴り足を上げ、ねらった方向に蹴ることができる。

(2) 本時の展開に当たって

- 蹴る・投げる・捕る動きの感覚をつかむために、準備運動で「スリッパとばし」、「リバウンドボールキャッチ」などの運動遊びに取り組みさせる。その際、友達のよい動きを体の部位に着目させて見合い、比較しながら動きのよさを自分なりの言葉で表現させる。

(3) 実 際

道筋	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
つかむ・見通す	1 準備運動をする。 ○ 附属体操 ○ 感覚づくりの運動遊び ・スリッパとばし ・リバウンドボールキャッチ	(分) 13	○ 動く際に負担のかかる膝や肘、手首などを中心に体をほぐす運動を行う。 ○ 基礎的な身体能力の向上を図るために、附属体操を行う。 ○ 蹴・捕の動きの感覚をつかませるために、感覚づくりの運動遊びを行わせる。 ○ 体の部位に着目させ、動きを比較させながらよい動き方に気付かせ、自分なりの言葉で発表させる。 ○ ゲームの仕方を確認したり、キックベースボールでの動きをイメージさせたりするために掲示資料を活用する。
	2 本時の学習について話し合う。 みんなが楽しめるルールを工夫しよう。		
挑戦する・工夫する	3 ゲームⅠに挑戦する。 ○キックゲーム ○ゴールを守れ！ゲーム	12	○ 軸足を踏み込み蹴る動きやボールの正面に入って捕る動きを身に付けさせるために、的をねらったり動いてボールを捕球したりするゲームに挑戦させる。 ○ 体の部位や姿勢に着目させ、動きを比較させながらよい動き方に気付かせ、自分なりの言葉で発表させる。 ○ 運動の行い方が分からない子どもには、補助や説明をするなど積極的にかかわるようにする。
	4 友達の動きを見合い、よさを話し合う。 ける足とはんたいの足をしっかりとふみこんでけているね。 ける足を後ろにしっかりと引いてけると強いボールがけれるよ。		
	5 ゲームⅡに挑戦する。 友だちのようにける足とはんたいの足をしっかりとふみこんでけると強くけれたよ。		
生かす	6 ルールについて話し合う。	14	○ 「全員が得点するチャンスがあったか。」という観点でルールを工夫させる。 ○ 自分のがんばりや伸びを自己評価させるために、学習カードにがんばったことやできた動きなどを書かせる。
	7 整理運動をする。 ○ 膝、肘、肩、手首など		
	8 本時の学習のまとめをし、次時の学習について話し合う。 1 塁でも1点にしたり、ストップゾーンを狭くしたりすると全員に得点のチャンスがある。 ・ じく足を強くふみ込んで足を後ろに引いてけったらうまくけれたぞ。つぎの時間ももっと練習したいな。 ・ みんな楽しめるルールを工夫できたね。次のゲームが楽しみな。		
		6	○ できなかった動きができるようになったこと、友達のよさ等を発表させ、称賛し、次時の学習へ意欲付ける。